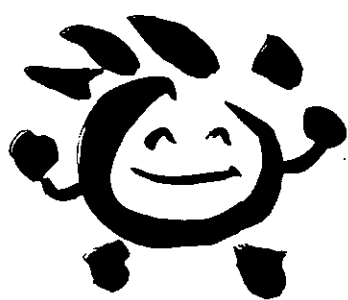




千代田

まちづくりサポート通信

(財) 千代田区街づくり推進公社 2000年11月 No.4

実り豊かな15グループの成果



第2回まちづくりサポート最終発表会

千代田のまちを、より住みよく活気あふれる魅力的な「まち」にしようと、「市民」レベルで活動するグループを支援する「第2回千代田まちづくりサポート」の最終発表会が、9月30日(土)、神田さくら館で行われました。第1回から継続の10グループと、第2回から始めた5グループの発表内容は、それぞれ審査員も目を見張るような質の高いものでした。

発表会は、神田さくら館7階の研修室で行われました。まわりの壁に写真や地図、図表などを貼っての展示風景は、前回と同じスタイルですが、内容、発表方法とも、レベルはぐんとアップ。精巧で立派な模型や出版物などの「成果」も並べられ、見るだけでも楽しいぐらいです。

発表内容は多岐にわたり、次のようなものです。

- ・ 神田のまちの“古きをたずねて”分析し、記録に残したり再興を図ろうとする
- ・ 祭など、まちの行事を徹底的に調べて、より盛り上げようとする
- ・ ウォーキングやランニング、街角に花を咲かせるなどの活動を通して、まち起こしの輪を広げる
- ・ 都心居住の研究と実践をする
- ・ 地域の開発の研究をし、住民のまちづくりを提案する、など。

I T時代を反映して、発表会場にパソコンを持ち込み、写真や自作のコンピュータ

グラフィックから簡単な映像まで流したり、情報発信のホームページを開設するグループや、活動を一層飛躍させるため、NPO(民間非営利組織)の申請をしているグループも出てきました。そして、活動の中でグループ同士の交流も盛んに行われ、まちづくりの輪も次第に大きく育っています。

こうした成果には審査員の中から「感動した。区民としてありがとう」という言葉が出るほどでしたが、「もう少し努力を…」と励まされるグループもありました。

このサポート事業は、千代田区街づくり推進公社が賛助会員の浄財を用い、「住民主体(区民に限らない)」のまちづくりを支援しようとして昨年創設した事業で、助成金は



CONTENTS

〔活動発表〕◎は、第1回からの継続グループ

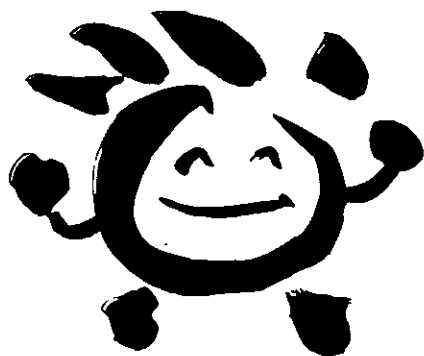
グループ名	頁
◎江都天下祭研究会 神田倶楽部	2
◎TOKYO住環境研究会	2
◎飯田橋地域の開発を考える会	2
◎神田・SU	3
◎都市住宅とまちづくり研究会	3
◎まちづくり神田工房	3
◎外堀遊縁研究会	3
◎神田市場研究会	4
◎大連戸天下祭フォーラム	4
◎千代田健康活動クラブ「チャオ」	4
◎まちづくり走り屋「道楽衆」	4
◎Q&T	5
◎神田探偵団	5
◎香町まちづくり文学館	5
◎花笑がじいさん	5
〔審査員講評〕	6
〔おまねット・オープン〕	8
〔賛助会員一覧〕	8

第1回、第2回とも年間総額300万円。今回は活動内容により、各グループに5万円から最高41万円が助成されました。発表内容の抄録と審査員の講評は、2ページ以降で紹介します。

〔最終発表会プログラム〕

とき 平成12年9月30日(土)
ところ 神田さくら館・研修室

- 11:00 受付開始、ブース設営
- 12:00 ブース公開・昼食
- 13:00 開会の挨拶
- 13:05 活動内容の最終発表(15グループ)
(各グループ、発表・質疑)
- 15:35 休憩・ブース公開
- 15:50 講評 審査員より
- 16:10 閉会の挨拶
- 16:40 交流会

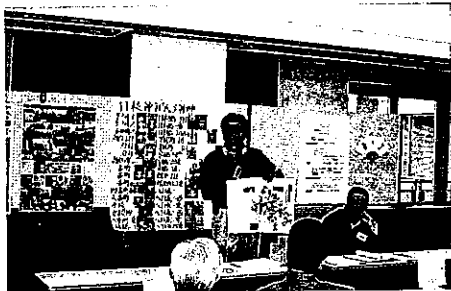


・グループ名「回目」・テーマ・(助成金額)
・発表内容・審査委員とのQ&A

江戸天下無研究会 神田倶楽部(2)

「祭りを通しての『まちおこし』活動」ならび
に関連する資料の収集出版。神田神社、日枝
神社氏子地蔵取材 (20万円)

2001年2月に出版予定の写真集に町会
割の氏子地図を載せたいために苦労し、町
会内の氏子範囲に限定して許可をもらっ
た106か7ある氏子町会の沿革を入れ、自



分の町に自信とプライドを持てるように
出版準備を進めている。

今年は日枝神社の大祭があったので各
町会の神輿と山車の取材をしてまとめた。
小さい神輿でも、「よく見てくれ、ここの
彫物がいいだろ」と、各町会の方が必ず自
慢する。これは町会の財産なのだ実感
した。

神田の中には、せっかくの神輿がお蔵
入りしたままで、お祭りのできない町会
もあった。そういうことのないようにと
いう願いも込め、そのこともいずれ小冊
子で出版したい。



Q・町会割の氏子地図の調査の前例はな
いのか。

A・すべて初めてのこと。話は地元の長
老と意の人たちに聞いた。

Q・調べて面白かったところは？

A・昔の川の位置、堀割、町会の境界線
なども分かった。

Q・今の町名と明治の町名が異なるが、
お神輿はどの時期でできたのか？

成果、発表しあってお互いの参考に

最終発表は、15グループが持ち時間各5分の中で、写真や図表などを使って
行われました。その後、審査員が質問したり、助言をしました。この事業は、公
社の賛助会員からの浄財が助成金だけに、各グループとも、どんな活動をしたか、
また会計はどうだったかを報告する義務があります。しかし、公開のこの最終発
表会は、「その結果を評価したり審査するのではなく、お互いに発表しあって参
考にするとともに、助成金はどう使われたかを幅広く知ってもらうもの」(卯月盛
夫審査会長)です。そこで、グループ毎にその発表内容を紹介します。内容は、当
日の発表と発表用資料を元に事務局の責任においてまとめさせていただきます。
紙面の関係で、一部を割愛しています。

A・昭和8～10年くらいに区画整理で
町名が変わった。神輿ができたの
はそれ以降だと思う。

TOKYO住環境研究会(2)

〔富士見・飯田橋・丸塚のまちなみ
1980～2000年の記録と研究〕 (27万円)

今回はCD-ROMを用いて記録集を作成
し、ホームページ形式にビデオ映像と静
止画をデジタル動画(1秒間に1コマ程
度のムービー形式)で編集合成した。
(パソコンのディスプレイ上での説明)

地図上のある地区を取り出し、「80年代」
「それ以前」、「現在のまちなみ」の写真を



対比させる。たとえば富士見地区の早稲
田通りなどの変貌過程を撮影し、その画
像を3次元CG化(データ化を終了⇒デジ
タル映像化)した。

対象地域は現在3～4箇所だが、コンピ
ューターによる編集とCD-ROM制作を行
った、これらの内容をホームページで順
次公開している。

未だデータ量不足のため不充分なので、
今後はもっとイメージ通りのものにして
いきたい。



Q・分析や研究はまだのようだが、誰
にどう使ってもらおうのか？

A・もちろん、多くの地域の人たち、
特に若い人にこれをベースに利用
してもらえればと考えている。

飯田橋地域の開発を考える会(2)

〔飯田橋JR貨物駅周辺地等の開発に伴い、ど
のような開発が望ましいか、また飯田橋地域
にどのような効果・影響があるか〕 (18万円)

活動内容は次の通り。

1. 地元の目白通りの植栽柵の再生。都道
なので植栽柵や植木は東京都の財産だ
が、管理は地域商店街がするという協
定を結んでいる。両者に掛け合って許
可を取り付けた。枯れた植栽が目立つ
ので、まず専門家に調べていただき、デ
ザインも考えてもらう。街の人たちにも
参加を呼びかけて適する植物につい
て研究したい。
2. 「JR貨物跡再開発地の歴史的遺産を
生かす」ことについては、讃岐高松藩の
上屋敷跡、石づくりの排水溝跡、甲武鉄
道のプラットホーム跡も出てきたので
開発に生かせないかと提案。歩道の一
部には枕木や排水溝の石を並べること
などが実現しそう。
3. 三崎町の人道橋は、幅3m長さ30mで、
2～3億円かかるそうだが、中央部に立
ちどまれるスペースのデザインも実現、
防災船着場もできる予定。
4. 飯田橋駅舎の改築を考える「街づくり
会議」は、地元5団体が集まり開催。3



階建ての駅ビル全体で採算がとれるよう
に、地元の出版社なども入れ、屋上を公園
広場にして、歩道橋で駅と道路を結ぶな
ど提案している。



- Q・緑地を生かしてほしい。また、この駅は、動線が長くないか？
A・緑は屋上に残すし、混雑していた駅改札口が安全になると思う。

神田SU (ス) (2)

〔フリースペースによる都心のコミュニティづくり〕 (30万円)

まちに出て活動する柱としては地域のコミュニティづくりと、土と緑を中心に輪をつくり広げること。ワークショップを開き土で手作りの植木鉢を子どもたち



と作成し、鉢で緑を育てる活動を続けた。

後半はロンドンに行き、国際交流を兼ねて土壁を制作。子どもたちと計6回のワークショップを行い、街や環境について語り合った。発芽したドングリをおみやげとして手渡し、お礼の手紙をもらう。地域の児童館でその展示をした。

また「SU」屋上ではメダカを育てた。サポート仲間の「チャオ」の方にお世話になり、気功教室も開いた。今後は屋上緑化を「花咲かじいさん」と協力してやっていく。地域とのコミュニティづくりを図り土と緑の輪を広げていきたい。



- Q・リンクしていく活動の意味などを整理してほしい。地域の若い人との交流を図りたいというのが具体案は？

A・地域の祭りに参加したり、環境、緑などを切り口にチラシやインターネットで呼びかけたい。

都市住宅とまちづくり研究会(旧「みらい」都心居住促進研究会)(2)

〔神田地域での定住促進のしくみづくり～共同化を見据えて～〕 (12万円)

会の名前を変えて、NPOの申請をした。神田紺屋町南地区での共同建替え事業に取り組む。2種類の模型を作成し議論している。

都心共同住宅供給事業によって共同建



替えをした事例の視察と地元の方との懇親会や公開勉強会を開催。大学の先生を招き理論的な裏付けを、QQTの堀田康彦氏に「都心居住のすすめ」という講演を依頼した。(約100名参加)。その講演記録を含め「神田型共同建替え方式の提案」という資料を作成した。

神田東松下町の共同住宅12戸と事務所3区画の地権者の相談依頼を受け、9月にはコーポラティブ方式による具体的な提案をした。今後の展望は、車椅子障害者のための住宅供給の企画、推進、公開勉強会等にも取り組む予定である。



- Q・旧来のコミュニティとの関係やデザインへの配慮は？

A・コーポラティブ方式でまちづくりに取り組むことで地域住民との交流を図りたい。路地を生かし神田の雰囲気を残したものを考えている。

- Q・どういう人に住んでもらいたい。

A・バブルの影響などで神田から出ていかれた人や、家族構成の変化で出て行った人に戻ってほしいと思い、価格も抑える。

まちづくり神田工房(2)

〔街ににぎわいをもたらす公道(みち)の使い方を考える〕 (28万円)

情報誌『ひらけ！玉手箱』を昨年に続き年3回発行、その中で活動も記した。公道を使う皆さんにインタビューし、繋



がりができた。内神田の公道でやる町会の催しについて、52町会の会長にアンケートを依頼、全員から回答を得る。

道路の使い方について先進事例、世田

谷のボロ市や横浜野毛の大道芸大会、人と車の共存する横浜元町、伊勢崎モール、ヨーロッパの町・ブダペストのオープンカフェ、ウィーンの旧市街等を視察。

イベント調査の結果、道路利用の目的、組織、障害などをどう克服したかを尋ねる。スポーツ商店街のイベントでは、主催者からはもっと道路を使いたい許可されないという声が聞かれた。

神田駅西口商店街から、昨年完成させた舗装の改良、電柱電線の整備、持ち出し看板の一扫など商店街好みの事業の苦労話を伺う。さくら通りの車道の農業祭り、仲通りの昼休みの歩行者天国はランチョンプロムナード、ウゴンセール、能楽金春祭りなどに取り組む地元の方に話を聞く。道路利用で成功するには、地域の組織づくりや、自分たちで使い方を考え関係官庁と相談してルールを設け実施することが必要ということが分かった。緊急時災害時の対応、通行障害を無くすこと、公に頼らないなども大事な。

外堀遊縁研究会(2)

〔牛込見附をいかした地域観光まちづくり〕 (41万円)

1年前のアンケート調査の再分析をし、それをもとに牛込見附周辺の復原を試みた。その構造としては石垣に負担をかけない櫓をつけることを考えた。



地元商店街からシンボル塔の設計を依頼され、見附周辺の町並みづくりの一環として参画、単純に照明灯を支える構造とした設計は完成した。江戸城見附グッズの鯨は、サンプルとして永平寺の木魚を曲げた形のものをつくった。

地元の桐生稲荷の講演から調査依頼を受け、『牛込御門内桐生稲荷の履歴』を編纂、郷土史伝承第一話として6割ほど原稿がまとまる。これがきっかけで群馬県桐生市との交流も生まれる。

今後の活動に向けて、NPOの定款づくりに取り組み、申請するのみとなった。



- Q・NPOにする動機は何か？

A・NPOにする理由は、やはり建設費の問題。グッズをつくり収入も得なければならない。任意団体から法人組織にすることで認知されることになる。銀行口座を設けるためにも必要なので踏み切った。

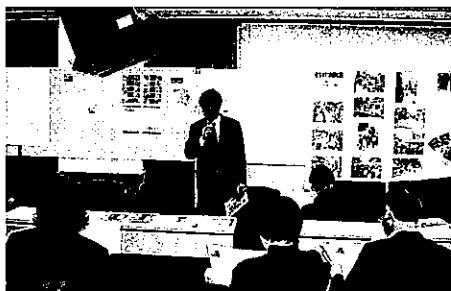
神田市場研究会〔2〕

〔神田と掛けて市場と解く、その心は〕

(7万円)

やり残した業種別の見取り図は完成。今年度はヒヤリングマラソンで興味深い話を伺った。岩本町などの繊維・衣料街で、洋服店、裏地・表地の製造者、婦人服組合の役員などに主に伺った。

「その心は」の答えは、1つは残していく文化、2つは会話、3つに夢、4つ



にオリジナル、ではないかと考えた。

この繊維問屋街は古着の発祥地で、ここを中心に市場ができた町が発展した。古着とは残していく文化、リサイクルだ。

会話とは、昔は隣同士が集まって町中でいろんな会話があった。

夢とは、日本の中で、繊維業ではここに店を出すことが夢であった。

オリジナルとは最近の若い人のファッションの流通経路は昔のような状態に帰りつつある。自分で反物を仕入れ、デザインし、型をとって縫う。1品しかないというオリジナリティが生きる。

配付の資料でヒアリング結果のプロット地図をコンパクトにまとめた。そこから土地の持つざわめきを感じてほしい。



Q・今後の展望は？

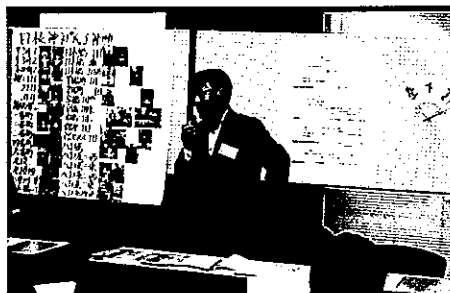
A・取引先の転居などでヒアリング連鎖が途切れて困った。今度は広域でのアンケートを計画している。

大江戸天下祭フォーラム(旧江戸ゆかりの山車フォーラム) 実行委員会〔2〕

〔甦るか天下祭〕

(14万円)

天下祭を全面に出した企画を考えたが、



大江戸線全線開通が12月と聞き、実行委員会の名称を変えた。月1回その企画をどう実行するか24人の委員が議論。また昨年のフォーラムの報告書ができた。

今回は「大江戸天下祭フォーラム」という形で大江戸線全線開通記念イベントを12月に開催する。2003年に開府400年天下祭をしようというのが最終目標。10月17日に江戸東京博物館で、「21世紀のお祭りトーク」を開く。狂言師野村万之丈さんを迎え、いまなぜ天下祭なのか、新しい東京の祭りについて語ってもらう。

その後、特に若い方には馴染みがない神田祭りや山王祭り、山車を披露する。

過去2回の江戸ゆかりの山車フォーラム等により、一大天下祭ネットワークが進み、都市とまちの交流もできた。

今後、一層、より多くの人に伝達し、新しい祭りを創造するという世論形成を考えていく。

千代田健康活動クラブ「チャオ」〔2〕

〔健康づくりナビゲーションマップ&ケアガイドの充実と手軽な健康づくりネットワークの拡大〕

(29万円)

「健康づくりはまちづくり」の理念で5年間活動し、8枚の『健康づくりナビゲーションマップ&ケアガイド』が完成。こ



のマップを配るためにスポンサーを捜し、毎月「手軽な健康づくり」のプログラムを実施した。延べ120名ほどの参加者を得て、ネットワークの拡大も図った。

8枚のマップは千代田区の各所を網羅し、どんな風に歩くかも書いてある。実際に地図を作りながらみんなで歩いたところ、区外からの参加者もいた。会員が区内の建物など、観光のガイドも兼ねて

説明して楽しんだ。空き缶を拾いながら歩くとか、工夫した歩き方もできた。

マップ希望のグループには、メンバーがナビゲーターを引き受ける。健康づくりに加えて観光の推進地区になりたい。



Q・企業でもこういうものをリクレーションを兼ねて取り入れれば広まると思う。特に千代田区の企業が協力してくれればと願う。観光にも発展させたのは面白い。次のステップは？

A・一人一人がナビゲーターになれば素晴らしいと思う。

まちづくり走り屋"道楽衆"〔1〕

〔ジョギングコースが"まちづくり千代田"を活かす〕

(13万円)

人が安心して走れるのが住みやすい町。月1回皇居の周りを走り、問題点を発見しつつ健康づくりをする。情報の発信をするためホームページ『東京ランニング



横町・かわら版』を公開し、シンポジウム等への参加を公募をしている。

またランニング学会の賛助会員となり、東京都やランニング学会共催の『産業振興ビジョンシンポジウム』を企画構成する。「市民がつくる国際マラソンは都市観光、産業振興の切り札となる」。

ジョギングコースの事例調査で、大会運営や市民の間への定着度などを視察(国内は静岡・大井川、海外は豪州パース・シドニー、コロラド・ボールダー)。

提案としては日比公園にジョギング館を造ること。ベースポイントとして、更衣室、ランニング情報、トレーニング施設などの機能を創る。日比谷公園の再生も考え、安心して走れるコースをつくることをテーマに活動したい。



Q・緑の減少は困るが、ジョギング館を実現する具体的なアプローチは？

A・公園管理者が都建設局公園部などで都議会に署名を提出する。テニスクラブ等の民間事業との協力も可能だ。

QQT (1)

〔街づくり救急隊の構想と実践〕 (5万円)

街づくりに関する情報収集をし、火種を発掘してご意見番として気軽に相談に応じる活動でネットワークを広げ、組織、活動、情報の基盤整備を図った。毎月1



回の定例会議で、今後の方向性も議論し、1、6月の2回、勉強会を開催。

ホームページも開き、今後一層ネットワークを整え、問題点の発掘と提言をしていきたい。具体的には、靖国通りや淡路町交差点のガードレールの必要性に疑問を投げかける。

◇

Q・提言はどこに対してするのか。またこの助成金でできたことは何か。

A・実際は助成金の中で活動をし、年会費はプールして使う予定。提言は千代田区の各担当部署に行う予定だ。

Q・予算の半分しか使ってないのは、当初の活動目的の半分しかできなかったからか、それとも次期のため?

A・後者で、ホームページに関しての予算、仲間を募るための通信費。本番はホームページを作ってからと考えている。

神田探偵団 (1)

〔子供たちに知ってほしい郷土・神田〕 (16万円)

子供たちに故郷神田をより知ってもらうために、5枚のパネルを作った。母校の小中学校などに展示してもらう予定。



1. 江戸のまちづくり=日比谷一帯は海で、神田山(今の駿河台)など切り崩して埋めた。神田川を掘り、底の土も神田川沿いの土手にあげた。
2. 関が原の戦いから30年後=神田の町が始まる。太い中央通りの突き当たりで万世橋(交通博物館の辺り)。神田は大通りの両側。江戸の町は何度も火事を出し、神田もその度に広がった。
3. 神田に関連しているもの=馬事公園、神田明神、根津神社とか神田の神輿など。
4. 明治時代=武士の町、小川町、神保町、駿河台などが、従来の神田に西側半分をプラス。ほぼ現在の神田ができる。
5. 大正時代から現在まで=神田のシンボリックな地域、多町に青物市場があったところ。

◇

Q・対象が子どもだと、少し難しいのでは。レクチャーはしてくれるのか?

A・小学生でも頑張って読んでほしい。要望があれば、パネルを持ってどこへでもレクチャーに伺うつもりだ。

番町まちづくり文学館 (旧番町文学会) (1)

〔番町・麹町地区における文化人マップ・ラビリンスのまち・番町~時空を超えたわが町への旅~(その1・六番町編)の制作〕 (11万円)

まず、わが町の歴史、文化地図、次に文化プレートづくり。さらに番町文学館



の設立。と考え、会の名称も変えた。

資料採取にあたった六番町のわずかな区域にも多数の文化人がかつて住んでいたことが判明。手始めに『番町文芸地図』を作る(資料配付)。

文献等で記述されている住所をもとに古老の記憶や写真を頼りに地図上になるべく正確な所在地を記す作業を実施した。

唯一、泉鏡花だけは顕彰プレートがある。今後は行政、観光協会等に働きかけ

て顕彰プレートの設置に取り組みたい。

◇

Q・調査後、方向性は出てきたか?

A・近く、ガイドマップを印刷(ゲラまで完成)し、番町一帯に配付する。これにより地域のプライドや愛する気持ちを持てるよう、まちづくりに貢献したい。

Q・文化人たちはこの町をどう見ていたのか、聞き書きなどもまとめてはどうか。

A・まず『番町における内田百閒』でゆかりの人の話をまとめた。

花咲かじいさん (1)

〔花のかけはして心豊かなふれあいまちづくり〕 (29万円)

地域、町会、学校の三位一体の活動が大きく広がり感謝している。130のプランターを早稲田通りに置き、困難もあったが、里親さんが水をやり、何とか秋の植え替えをするまでになった。草花に



詳しい方もメンバーになり、挿し芽の仕方などを教えてくれた。

困ったことは肥料を戻した大量の土の購入と置き場所の問題。結果的には早稲田通りを通学路とする富士見小学校との交流で解決する。学校の理科園に10年来放置していた7トンの土を再生させた。子どもたち、PTAとも共に作業できたことも大きな収穫だった。

8月の子どもまつりに、「SU」と手づくりの土鉢づくりに参加。10月には子どもたちと種植え、苗を育てて花鉢に移すまでを体験学習する。

白ゆり学園小学校に招かれ、子どもたちに話をしたら礼状をいただき感激する。

◇

Q・今後、メンテナンスセンターなどが必要では。寄付を募ることは?

A・活動が「街づくりかわら版」などで紹介されてメンバーも増えたし、バザーなども行った。自分たちの地域は自分たちでという輪も広がっている。課題は多く心配だが頑張りたい。



幅広く質も高かった活動

審査員講評 (敬称略)



卯月盛夫 (会長・早稲田大学教授)

はじめに

きょうは「最終発表会」であって「報告会」ではない。それはこの場合は、必ずしも1年間の活動の評価や審査をするためにあるのではなく、あくまでも自主的に発表しあって、次の活動に結び付けてほしいという意味があるからだ。

また、このサポート事業にご協力下さる賛助会員の方々に、その浄財がどう使われたのか知っていただくための発表でもある。

ただ、貴重な浄財が当初の目的通りに使われたか、サポート事業の主旨が見失われずに生かされたかという点をきちんと点検する義務が、われわれ審査員にはあるかと思う。

すばらしい発表や目を見張るような成果が多くあり、NPOへの申請など、将来が楽しみなこともうかがえ感動したのも事実だ。

ただ、もう少し頑張ってもらいたいグループもある。たとえばQQTの場合、留年してもらって、さらにいい活動を期待したい。



でもあれば言うてください。

千代田区のサポート事業は注目を集めており、みなさんはリーディング・プロジェクト。この間は岩手県の方々が視察に訪れたり、全国に影響を及ぼしている。

全般的には、今回の発表会は前回よりも、

講評

既存の制度や仕組み、地方自治体、行政や企業などが目の前にある中で、一方には僕らの背後に、組織などとは全く関係のない個人、顔も考え方も違う一人一人の市民がいる。まちづくり活動も、われわれ委員も、両者をどう結びつけるかに苦心していくものではないかと思う。よく、NPO等の団体を中間団体というのは、まさにそういう意味である。市民一人ではできないことも、個々の活動の矛盾を解決し、市民と繋がりを持たせて、快適な社会にするために中間団体がある。

だとすれば、僕ら委員は企業と活動のグループ、市民、住民を結び付ける役割を担っている。みなさんは千代田区に住む一人一人の思いや願いを形にして、イベントやマップにして、社会、地域に届けることが託されている。

そこで、常に頭に入れておかなければならないのは、その活動がだれかに支えられていること。そして、だれかのために役に立つという、循環の気持ちだと思う。

常に、自分のためではあるが、いったいだれのためにしているのか、後ろにいる声なき市民の支持を得ているだろうかと考えること。それを振り返りながら前に進まないと思う方向に行ってしまう。

僕が、ドイツの市民団体の活動調査をしたときに、市民団体には発展形態から

いって、3種類あると思った。1つは、いわゆる任意団体。この指止まれ、といっておもしろいことをやる。楽しかったけど、飽きたらやめてもお咎めはない。

2つ目は、NPOとして登録をし、会計報告もきちんとして、若干義務も生じる。ある程度目標を設定して継続もしなければならぬ。支援してくれる人もいるので、簡単にはやめられない。

1から2へ行くステップを考えることは極めて重要になる。

3つ目のタイプは、NPOになっても、さらに会員数を増やし、もっと社会的な事業体として、政治的にもコミットメントしよう、という段階になる。そういう団体は自然保護団体などラディカルな活動をしているNPOが、極めて中道的になることで、会員数も増えて社会的発言権を持つ。これをドイツでは公的団体といい、NPOではなくなる。

この場合の「公」とは何か。新しい公共という概念は、時と地域によって変わっていくし、変わらなければならない。変えていくのがまさに市民活動だ。

この3種の団体は、自分たちの前に社会のシステム、企業や行政がいて、背後に市民がいる。その中間に立って、いつも自分たちの居場所、活動のスタンディング・ポイントを定めていくべきだ。

NPOの活動の発展、市民活動の継続ということをも、もう一度、お互いに考えていかねばならない時期にきている。

北沢 猛 (東京大学助教授)

留年となったQQTについては、われわれの期待もあってのことなので、もう1年頑張してほしい。



審査員のサポートが足りなかった面もあったかもしれない。ご相談

格段の進歩があったと思う。まちづくりのテーマに向けて、いろいろな切り口から取り組み、多くのグループが具体的に実践しているのを頼もしく感じた。

小さな発見、きっかけから、実際に事業が大きく展開していく。他のグループとの繋がりも生まれ、われわれの期待以上にそういう進展もあったようだ。

インターネットやCGを使っている人への伝え方も進歩したと思う。NPOをめざす団体が2つも生まれ、大きな力になるはずだ。他の助成金、スポンサーなどへの働きかけとか、次へのステップや方向がそれぞれ見えてきたという印象を持った。

来年継続される方は、もう一度、各グループの方向を固めて、都心居住の推進なども神田らしいあり方を求めてほしい。

伊東 敏雄 (賛助会員・建築設計)

ここへ来るのが楽しみだった。きょうはみなさんと楽しく過ごさせていただいた。大変よくやっ



てくださったと思う。大きな流れとして、3つくらい出てきたのでは

はないか。個人的な見解だが、1つは、都市の記憶をテーマとした活動。2つ目は、まちづくりとの関連での突っ込み。特に氏子町会の実態調査という空恐ろしいような活動にはびっくりした。3つ目は、来年の方たちも意識してほしいが、僕の感じでは、15

件のうち10件は参加型の都市のオープン・スペース・マネジメントではないか。

参加型のスタイルはNPO的、NGO的だが、僕は「NIO」といって全く個人ベースのもの、つまりみんなでコモン・スペースを考えていこうという動きが、実は21世紀のまちづくりのメインの流れになるのではないかとと思う。

もう1つは、それらが、インターネットなど、いわゆるITによる支援という形で、行われること。みなさんのやっていることは次の世紀の重要な活動になると、僕は思う。

三枝 敏男 (公社評議員)

9月30日に行われた第2回最終発表会は、私にとって大変感動的でありました。発表するメンバーのイキイキと輝いている顔、や



るべきことはやったという満足感、でもまだやり足りない、もっとやりたいという

意欲、自分たちの手で千代田を良くすることができるという自信、そんな情熱が胸に迫ってくる感動的な発表会でした。

そしてもう1つ大きな収穫がありました。人的ネットワークの広がりです。昨年はほとんどなかった、志を同じくする仲間の心の交流がはじまりました。ひとつの水滴がやがて大河になるように、このネットワークが千代田に人を惹きつける原動力になるでしょう。千代田の街づくりに大きな展望が開けたような気がします。

今後、街づくり活動としてサポート事業をますます活発にするためにも、例えば今回の「成果物」がいつでも見られる場所を設けるとか、発表をもっと多くの人に聞いてもらう機会をつくるとか工夫が必要だと痛感しております。そうすればよりたくさんの区民の共感が得られ、人的ネットワークが拡がることと思います。

最後に、メンバーの皆様方に重ねて御礼申し上げます。本当に有り難うございました。

平岩 千代子 (電通総研副主任研究員・NPO)



最終報告会の皆様の発表を聞いた感想を以下の3点にまとめました。

まず第一は、市民の力が、着実に地域の社会的資産を形成しているということです。初年度の昨年の報告会では、千代田区には地域を良くしようという志と実力をもつ豊富な人材がいっぱいいることを実感し感銘を受けました。そうした人材が継続的な活動を続けると、わずかな助成金という投資で、お金では買うことができない多様な社会的資源を生み出すことを改めて教えていただきました。

第二は、まちづくりの活動が、社会教育や学校教育との壁を破る動きをつくっている嬉しさです。花咲かじいさんのメンバーが、小学校の社会科の授業を担当したというのは特筆すべきことではないでしょうか。千代田まちづくりサポートには、社会教育や学校教育とタイアップできる要素がふんだんにあると思いますので、今後ますます、こうした動きが活発になることを願っています。

第三は、ちょっと気がかりなことです。今後は「インターネットを活用したい」「NPO法人化をめざしたい」という団体が散見されたことです。それ自体は決して悪いことではありませんし、大いに活用していただきたいのですが、ただ気になるのは、ITや制度は、あくまでもツールにすぎないということです。誤解しやすいのですが、ホームページやNPO法人化が現在の活動の行き詰まりを解消する魔法の力にはなりえません。実は他に原因があることが多いので、こうしたツールがなぜ今必要なのか、その目的と活用法を十分に検討することをお勧めしたいと思います。

森 まゆみ (作家・地域誌編集人)



ずいぶんバージョン・アップしたというのが印象です。楽しんで仲間を

つくったグループ、すばらしい「成果物」をつくったグループ、NPOへと発展しつつあるグループ、さまざまな方向性が見えてきました。

「神田SU」は個人宅の改造にサポートするのは、と当初ためらいましたが、その都心にもかかわらずぬく

もりあふれる空間を、徹底的にパブリックなものとし、多くのグループと連携、また国際的にも広がるなど、実験として大成功でした。

「神田探偵団」も目的がしぼられ、みごとなパネルを作りました。ぜひ活用してほしいものです。「飯田橋の環境を考える会」や「外堀遊縁研究会」は多少、盛りだくさんすぎ、焦点の定まらぬきらいがあります。

すそ野を広くすれば山は高くなるのですが、全体のなかでそこに集中するのが、いまいる位置を確かめつつ進むこと。自分たちのアイデアがどれほど住民の同意を得られるか、ひとりよがりにならず地道に説得をつづけることが大事ではないでしょうか。

山崎 芳明 (千代田区都市計画課長)

今年は第2回目ということで、特に1回



目からのグループなどは非常に成長されたと思う。初めてのグループも1回目

ながら相当充実した活動だった。

発表を伺って大切だと感じたことは、情報収集や意見交換の重要性です。それは難しいことでもあろうかと思う。

留年となったQQTだが、ある意味でQQTのような活動の場があると、情報収拾や意見交換がやりやすいのではないかと。サポートのグループ内でも、それ以外でも、そういう交流が一層しやすいようになる。

千代田区では、サポート事業の他にもまちづくりをしているので、それらの繋ぎ目となるのではないかと。ただ、サポート事業としてはなじみにくいかも。実は、以前の街づくり協議会というのは、区内に6箇所あって、いま中断している。今後、新しいまちづくりということでどうするかを検討しているところだ。QQTはそちらの方が相応しいように思う。





まちネット(まちづくりネット実験工房)オープン!!

<http://www.digital.or.jp/machinet/>

まちネットはまちづくり活動のネットワークづくりを目指しています

「街づくりハウス・アキバ」の2階に自主的なまちづくり活動を行っているグループやSOHO事業者のための「まちづくりネット実験工房(愛称まちネット)」が10月13日オープンしました。

●まちネットの施設

- ・パソコンが4台とプリンター・スキャナーやルーターなどが設置してあります。
- ・ISDN回線で常時インターネットに接続しています。
- ・サロンでは小会議や打ち合わせができます。
- ・会員登録すれば「街づくりハウス・アキバ」が開館しているときは、いつでも利用できます。

●まちネットの機能

- ・簡単にホームページが作れます。
- ・まちネットのグループ内で、メールやメーリングリストが使えます。
- ・メールマガジンが発行できます。
- ・登録してあるまちづくりグループやまちづくり活動に協力していただけるSOHO事業者の情報が引き出せます。

お問い合わせは、まちネット運営委員会事務局まで

まちネット・千代田区外神田1-7-1

TEL.03-3262-0211 (公社企画情報課) FAX.03-3262-0213



(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧 (法人118社・個人61人 計179) 2000年3月31日現在

*この事業は下記の法人会員と個人会員の会費によって支えられています。(個人会員は省略させていただきました)

<保険関係> 千代田火災海上保険 (株) 大成火災海上保険 (株) 太陽生命保険相互会社 三井海上火災保険 (株) 日本火災海上保険 (株)	三井建設 (株) 前田建設工業 (株) 大林組東京本社 大木建設 (株) 飛鳥建設 (株)東京支店 戸田建設 (株)東京支店 熊谷組東京支店 長野建設 (株)東京本社 岡崎組東京支店 不動建設 (株) 久保久保 東洋建設 (株)東京支店 大成建設 (株) 鉄建建設 (株) 清水建設 (株)東京支店上野事務所 日東大工業 (株) 佐藤工業 (株)東京支店 大木建設 (株) 三機工業 (株) 鹿島道路 (株) 飛鳥道路 (株) 東京舗装工業 (株)関東第一支店 ナカノコーポレーション (株) 常盤工業 (株) 東亜建設工業 (株)東京支店 高砂熱学工業 (株)東京本店 ダイダマン (株)東京本社 真柄建設 (株)東京支店 長谷工コーポレーション (株) 岡崎組東京支店 ニューオールシステム (株) 古久根建設 (株) エルコテックス (株) 東京高速道路 (株) 中央建設 (株)	ヨシモトボール (株) <不動産関係> 大京 (株) 安田不動産 (株) 住友不動産 (株) 三菱地所 (株) 三井不動産 (株) 三幸エステート (株) お茶の水スクエア森ビル産業 森産業トラスト (株) 大日本企業 (株) 協永不動産 (株) 共立エステート	パシフィック・コンサルタンツ (株) 伊藤建築設計事務所 ラウム計画設計研究所 都市映像研究室 日立建設設計 東京都建築士事務所協会千代田支部 エコプラン <ビル管理> 東京美化 (株) 富士建物管理 (株) 鹿島建物総合管理 (株) <広告代理業> イサミヤ <販売・興業関係> 東宝 (株) そごう東京店 <電機・通信関係> 日立製作所 日本電気 (株) 三洋電機 (株) <その他> 秋葉原西口商店街振興組合 秋葉原中央通商店街振興組合 秋葉原商店街振興組合 明正社 神保町1丁目南部地区市街地再開発組合 丸紅 (株) 東京読売サービス
--	---	--	---

編集・発行 (財)千代田街づくり推進公社 企画情報課

東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階 TEL.03-3262-0211 FAX.03-3262-0213

公社ホームページ <http://www2.odn.ne.jp/citystation/> E-mail:makecity@pop17.odn.ne.jp

平成12年11月発行